

昭和18年(1943年)

# 戦時下の益田農林

第二次世界大戦前後。益田農林では、今を生きる私たちにとって、考えられない学校生活を送っていました。

## 戦時下の益田農林

戦時下のこの頃。教育の場である益田農林も国策に則り軍事訓練食糧増産に勉強の半分を費やしていました。また、生徒は公共的な目的のために、無報酬で勤労に従事していました。

当時は戦争にとられ男手が足りなかったこともあり、益田農林の2年生に対し、援農隊として北海道の下富良野への動員がかかったそうです。作業は北海道の広い耕地で除虫菊畑の世話をすることや、ジャガイモや米などの栽培などの力仕事。大変そうで、面倒くさそうな作業に思いますが、食物は充分にあり勉強も無い毎日だったこともあり当時の生徒たちは結構楽しんで作業していたようです。また、2年女子の修学旅行も、勤労奉仕をやらなないと県からの許可が下りなかったそうです。今では考えられませんがね。

○御承知の通り当時はまさに戦中でアメリカに対する宣戦布告そして戦況のニュースを正門前に集まり随分感激。ニュースも前もって予告があったのだろう、先生が自宅からラジオを持ち寄せ、聞いたことを思い出します。先生も生徒も一言も聞き洩らさまいと本当に興奮し且真剣でありました。

○制服も国防色(カーキ色)に戦闘帽それに常に巻脚絆づきで緊張した毎日を送り、国防精神、攻撃精神の養成が、教育の目標と思われる位であって、中でも剣道、銃剣術の練習は盛んで、思い出の一つに当時武徳殿

の新築記念として、県下高校の剣道大会が催され、各校とも白熱した試合運びで結果は益田農林学校が準優勝とされた。日も浅く選手層も薄い時代で、その頃都市部の剣道のレベルは郡部の学校に比べはるかに優勢な時でもありよく敢闘したものであり当時では快挙でありました。

大屋卓三「益高五十年」より



## 滑空部による滑空訓練

戦時体制が強化されつつある時期であった当時、益農は広い久津河原に専用の滑空場を有し、初級グライダーによる滑空訓練を実施していたそうです。また、手旗信号、モールス信号も覚えたそうです。

○グライダー部員20名の中の一人として私もグライダーの操縦桿を握りました。放課後には、一斉に滑空訓練に向かい、先生の指導で地上三米、五米と舞い上がり、今でもあの恐怖感を忘れることはできません。

二村勝美「益高五十年」より

